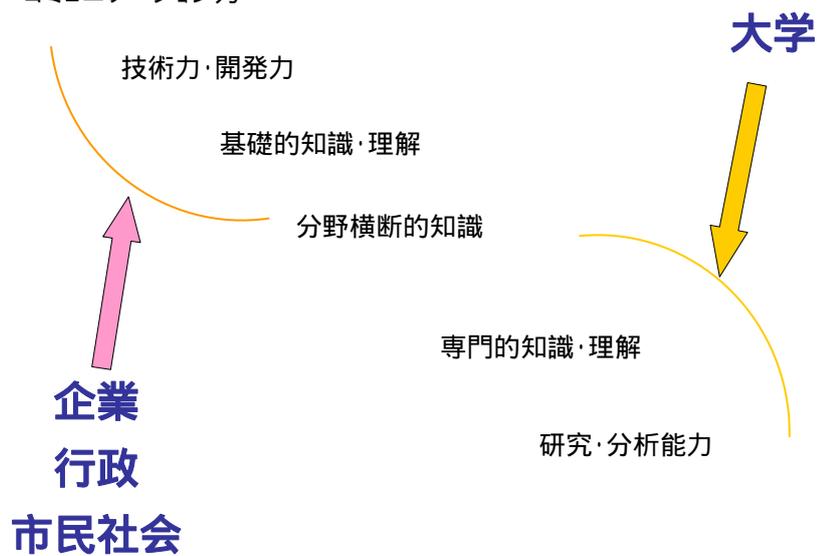


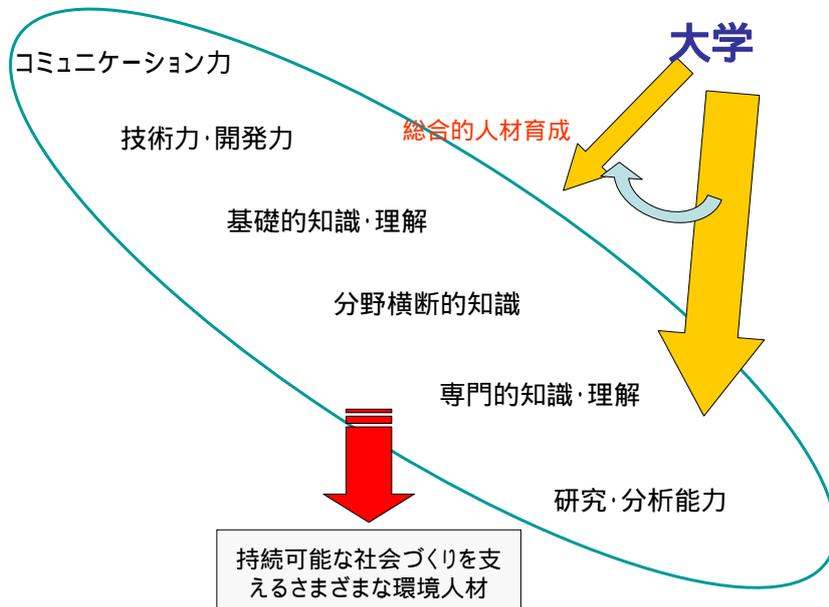
環境人材像とその育成手法

環境人材育成において求められる素養：
大学と企業・市民社会が追求しているもの

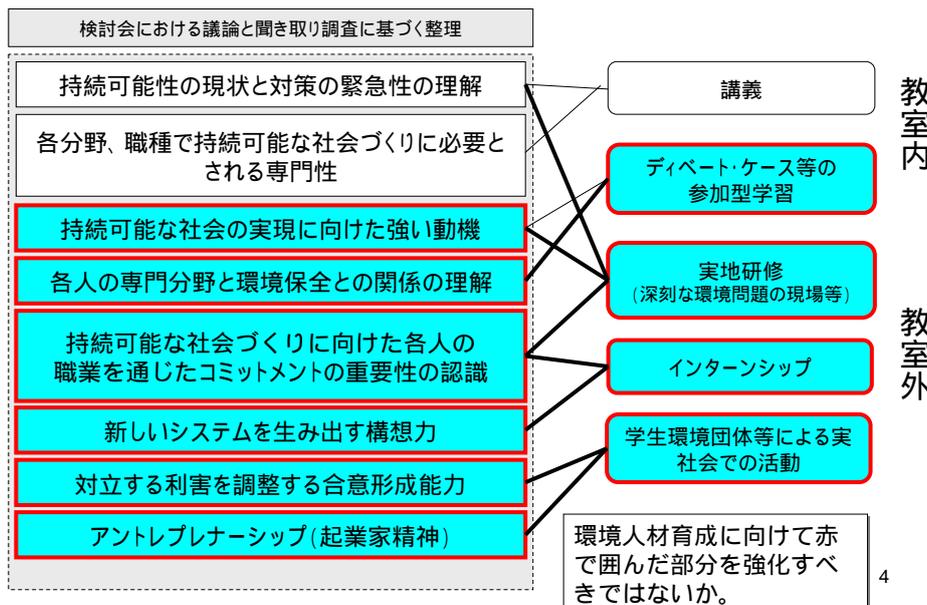
コミュニケーション力

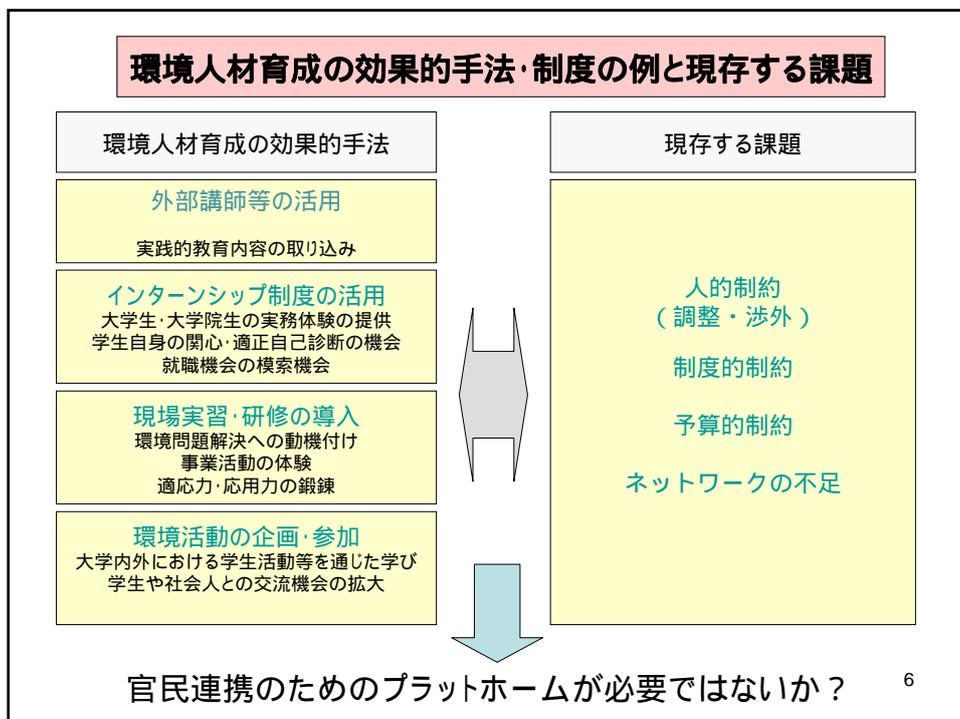
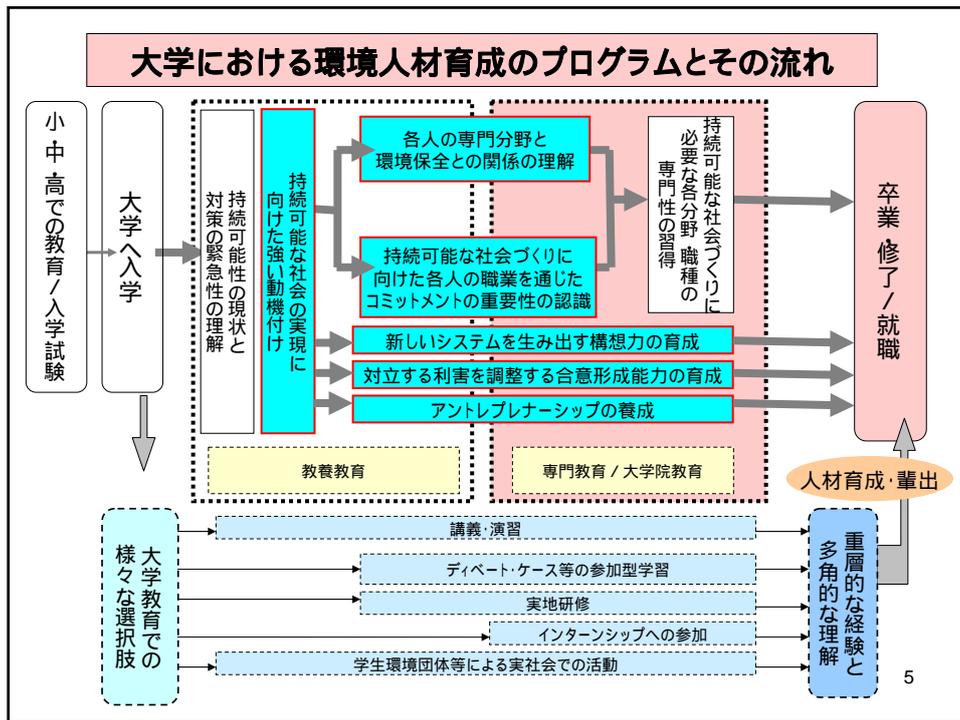


持続可能な社会構築に向けた大学における総合的人材育成

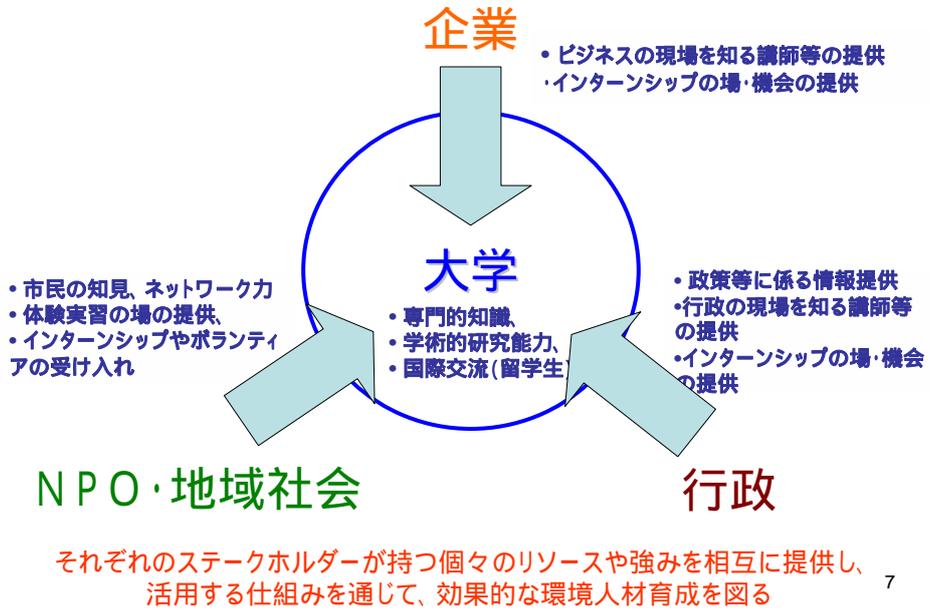


環境人材に求められる素養と教授法/育成法





環境人材育成のためのステークホルダー協働モデル



7

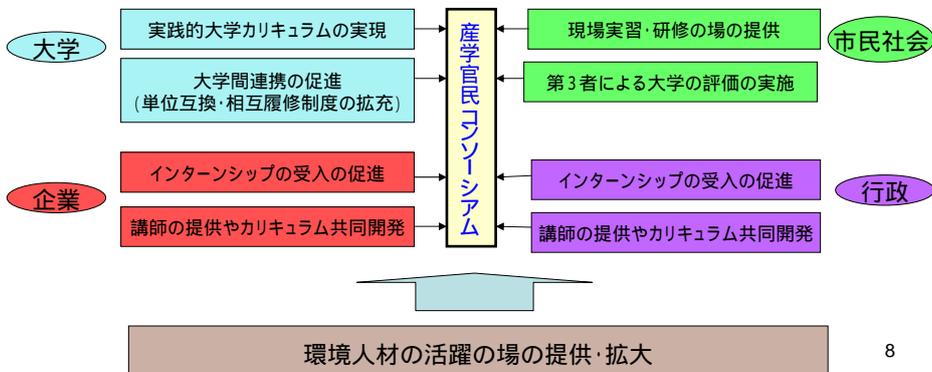
環境人材育成に向けた官民連携コンソーシアム(案)

官民連携コンソーシアムの基本的なコンセプト(案)

- 官民一体となった人材育成・活用により、
- ・実践的教育による効果的な環境人材育成
 - ・情報共有・マッチングの効率化
 - ・環境人材の活用の促進

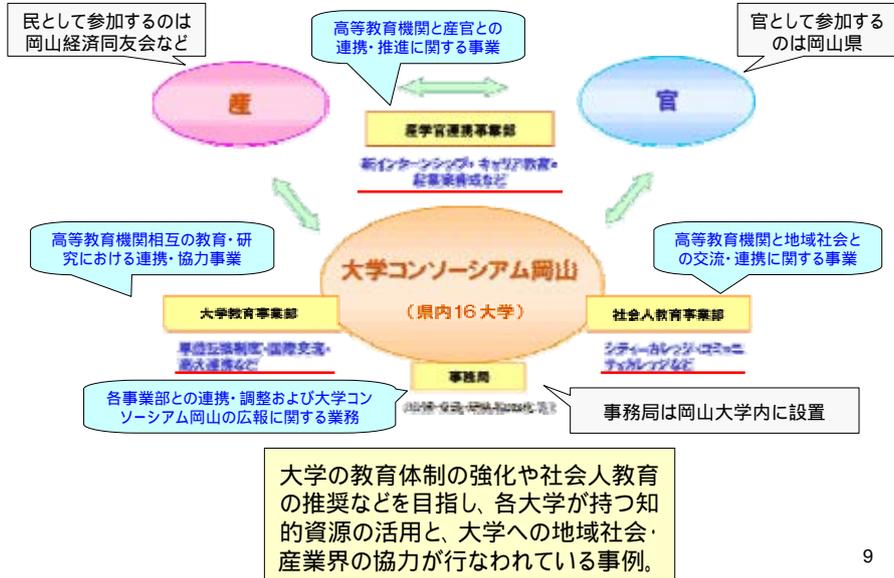
コンソーシアム参加のメリット

- ・大学での環境人材育成プログラムの開発にあたっての人材受入側との連携関係構築
- ・単位互換や外部講師等による質の高い教育
- ・実地研修・インターンシップ情報等の受発信
- ・マッチングにかかる事務作業の削減



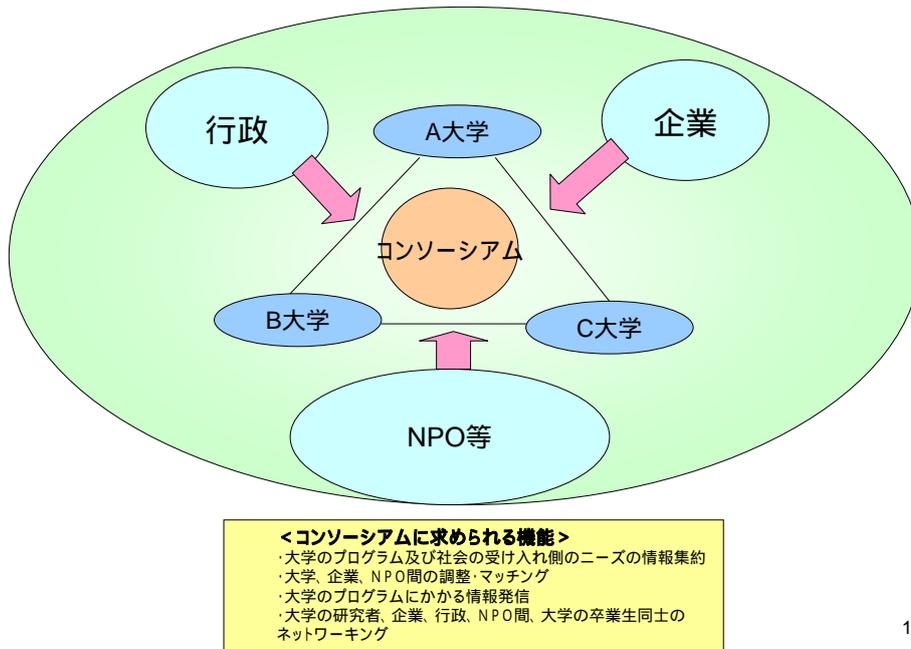
8

官民連携コンソーシアムの具体例(大学コンソーシアム岡山)



9

官民連携コンソーシアムの実施モデル



10

環境人材の活用を促進するためのキャリアパスの形成手法

(環境人材の能力の評価)

- ・ 採用側にとって参照しやすい環境系資格等の充実
大学生が取得しうる資格等の例:環境社会検定(eco検定)
環境プランナー
技術士補(環境部門)
- ・ 既存の課程の中への環境の視点の導入
 - 副専攻制度の導入
 - MBAの履修科目への環境関連分野の導入
(例:MBA・持続可能性ランキング:MBAでの環境・社会問題の取り上げ度を基にMBAを格付け)
- ・ 環境人材育成プログラムの第3者の評価・公的機関による推薦
- ・ 環境人材の表彰制度
(例 エコジャパンカップ:環境ビジネス起業家の事業計画等への表彰・ビジネス立ち上げ支援)
11

社会人の環境人材育成の手法

高等教育機関における環境人材の育成にあたっては、大学生だけでなく社会人を、その専門性の追求の中で、環境人材として育成していく仕組みづくりも重要。

そのための手法としては以下のようなものが考えられる。

- ・ 企業や行政などに勤める社会人が、1年から複数年程度大学もしくは大学院に戻り、環境に関する最新の技術や動向、学問成果などを学ぶ機会の提供の促進(環境版生涯・リカレント教育の促進)。
- ・ 環境経営等の進め方について異業種間の相互理解を深めるため、企業・行政・NGOの間で、短期間もしくは長期間の職員交流を促進。
- ・ 企業・行政・政治・NGO・研究者・国際機関などといった複数の勤務に就く機会や環境人材ネットワーク構築の促進。

大学における環境人材育成のための論点

環境人材像とその育成手法

大学で育成すべき「環境人材像」と「育成手法」は網羅されているか？

環境人材育成・活用のための連携

環境人材育成・活用のために官民が連携するコンソーシアムのイメージは？

環境人材の活用

環境人材の活用を促進するために効果的な手法は？

育成・活用方策

大学での環境人材育成・活用に環境省はどのような支援ができるか？